

## 階上の海の名所

5 1 1 0 1

### 1 テーマ設定の理由

テーマ設定の理由は、名所の名前を沢山、よく知りたかったからです。

僕は、名所は少ししか知らなくて、沢山の名所を調べてみたいと思いました。

これは、僕の好奇心から生まれたテーマで、名所の数はどれくらい在るのか、その中でも、宮城の名所はいくつくらい在るのかというのを調べてみたかったです。あと、その名所がどんな名前なのか。僕は、名所に、興味津々になりました。なので、さざなみで名所の事を書こうと決心しました。なので、名所の事をかきたいと思います。

話を戻しますが、僕は、おおきく言うと、名所の詳しい事を知りたかったということなのです。

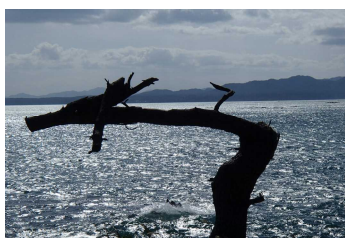
それに、階上の名所の事が、「名所」でよく分かると思ったのです。

という事で、よろしくお願ひします。

### 2 研究内容

#### (1) 名所しょうかい

↓ 竜の松



竜の松は、あの東日本大しん災でも生き残っていたんです。その竜の松の best ショットをとることができました。本当に竜の形に見えますね。

↓ 秀ノ山の像



秀ノ山は、第九代の横綱で、像の近くには、石ひが建てられ、その石ひには、「少年の頃から、力士を志し、辛酸の時を克服しついに第九代横綱の栄達をかちえた」と書いてありました。

## (2) 名物しょうかい

### ①塩作り (名物)

塩は、田んぼもあり、それを塩田といいます。

作り方です。まず、塩水を、田からくみます。その塩水は、200kgもつむんだそうで、一回に作る量は、その5倍だそうです。塩をとる場所も、決まっているそうです。岩井崎じゃないと、美味しくないそうです。

今度はタンクに積み、一日ねかせるのです。海には、ゴミもあるので、ねかせないとだめなんだそうです。そして、ゴミ(砂利など)をろ過してます。

ろ過する時は、タンクに入れる前に、ろ過するんだそうです。

↓塩(こまじお、あらいお)

そして、大きなかままでにつめます。



そのかまの中には、塩水が入っています。ですが、夜は火を止めるんだそうです。一回では、15kgの塩しかとれないのです。

まだまだ仕事があるそうです。とれた塩の水分を、なんとだつ水機でぬくんだそうです。残った水は、塩からいということです。まだ仕事があります。それは、塩の中の小さい砂などをさらに、手で取るということです。

大変ですね。塩は2種類あり、あらいおと、こまじおがあるそうです。

↓竜の松②



↓こまじお、あらいお②



↓潮騒ダー



これは、潮騒ダーです。とても美味しかったです。塩づくり体験館で、実際に買いました。写真右の「気仙沼サイダー」は、新作なんだそうです。

↓塩づくり体験館



名物しょうかいで、塩づくりを取材させてもらったのがここです。沢山の事を教えてもらいました。



### 3 今後の課題

東日本大震災で、名所を失った気仙沼……。しかし、気仙沼は、その震災で偶然できた竜の松を名所にしました。さらに、平成 26 年には、気仙沼の階上がジオパークに認定されました。震災前の階上の名所を残しながら、新しくできた名所を組み合わせ、これからの「階上の名所」づくりに励むには、これからの大きな課題だと思います。

祖母から聞いたことですが、「三陸道」の完成や「気仙沼大島につながる橋」の完成も、気仙沼の名所をどのようにするかにかかわる大きなカギではないかと思っています。

# 4 感想

ぼくも、ここまでいけたのには、おどろきました。ここまでいけたのは、きっと、協力してくれた人達の、おかげだと思います。まず、ぼくは、秀ノ山雷五郎の像の近くの石ひをみて、とっても感動しました。「辛酸」と書いてありましたが、これは、とてつらい事を成しとげるという意味だと思います。とつ然話を変えますが、ぼくといっしょに、塩づくり体験館や、竜の松に連れていってくれたのは、ぼくの祖母です。それに、塩づくり体験館にいた人も、話がとっても聞きやすかったです。ぼくが分かったことは、秀ノ山が第九代横綱だった事。塩づくりで、沢山の仕事があったこと等です。でも、ぼくはほかに沢山の名所がある事を忘れていました。ぼくは、それらの名所について調べたいと思いました。

そして、復興に向けて進む、気仙沼・階上がこれまで以上に魅力的なところになるように、見つめていきたいと思います。気仙沼の復興が楽しみです。